# 公益社団法人日本地球惑星科学連合
# 第 12 回学協会長会議

開催日時　平成 27 年 5 月 27 日(水)
13 時 00 分から 14 時 00 分

開催場所　幕張メッセ国際会議場 302 号室
(〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1)

（空白ページ）

ご出席予定者名簿

| NO | 学協会名 | 会長 | 役職名 | 出席予定者 | 役職 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 日本宇宙生物科学会 | 髙橋　秀幸 | 理事長 | | |
| 2 | 日本応用地質学会 | 長谷川　修一 | 会長 | 大塚　康範 | 副会長 |
| 3 | 日本温泉科学会 | 井上　源喜 | 会長 | 井上　源喜 | 会長 |
| 4 | 日本海洋学会 | 日比谷　紀之 | 会長 | 日比谷　紀之 | 会長 |
| 5 | 日本火山学会 | 井口正人 | 会長 | 井口正人 | 会長 |
| 6 | 形の科学会 | 種村　正美 | 会長 | 松岡　篤 | 庶務幹事(会長代理) |
| 7 | 日本活断層学会 | 岡田　篤正 | 会長 | | |
| 8 | 日本気象学会 | 新野宏 | 理事長 | 新野宏 | 理事長 |
| 9 | 日本鉱物科学会 | 小山内　康人 | 会長 | 小山内 康人 | 会長 |
| 10 | 日本古生物学会 | 大路樹生 | 会長 | 北村晃寿 | 庶務担当常務委員 |
| 11 | 日本沙漠学会 | 小島紀徳 | 会長 | 小島紀徳 | 会長 |
| 12 | 資源地質学会 | 林謙一郎 | 会長 | | |
| 13 | 日本地震学会 | 加藤　照之 | 会長 | | |
| 14 | 日本情報地質学会 | 升本　眞二 | 会長 | 若林　真由美 | 評議員 |
| 15 | 日本水文科学会 | 鈴木　啓助 | 会長 | 鈴木啓助 | 会長 |
| 16 | 水文・水資源学会 | 山田　正 | 会長 | 近藤　昭彦 | 副会長 |
| 17 | 生態工学会 | 竹内　俊郎 | 会長 | | |
| 18 | 生命の起原および進化学会 | 川村邦男 | 会長 | 小林憲正 | 運営委員 |
| 19 | 石油技術協会 | 小鷹　長 | 会長 | | |
| 20 | 日本雪氷学会 | 中尾　正義 | 会長 | 高橋修平 | 新会長 |
| 21 | 日本測地学会 | 福田 洋一 | 会長 | 日置幸介 | 新会長（6月） |
| 22 | 日本大気化学会 | 今村　隆史 | 会長 | | |
| 23 | 日本大気電気学会 | 小林　文明 | 会長 | 服部克巳 | 会長 |
| 24 | 日本堆積学会 | 武藤鉄司 | 会長 | 成瀬元 | 運営委員 |
| 25 | 日本第四紀学会 | 小野　昭 | 会長 | 小野　昭 | 会長 |
| 26 | 日本地学教育学会 | 牧野 泰彦 | 会長 | 牧野 泰彦 | 会長 |
| 27 | 地学団体研究会 | 長橋良隆 | 会長 | 宮地良典 | |
| 28 | 日本地下水学会 | 嶋田　純 | 会長 | 谷口　真人 | 副会長 |
| 29 | 日本地球化学会 | 川幡　穂高 | 会長 | 川幡　穂高 | 会長 |
| 30 | 地球環境史学会 | 多田　隆治 | 会長 | | |
| 31 | 地球電磁気・地球惑星圏学会 | 山崎　俊嗣 | 会長 | 山崎俊嗣 | 会長 |
| 32 | 日本地形学連合 | 倉茂　好匡 | 会長 | 武田　一郎 | 前会長 |
| 33 | 日本地質学会 | 井龍　康文 | 会長 | 井龍　康文 | 会長 |
| 35 | 日本地図学会 | 森田　喬 | 会長 | 森田　喬 | 会長 |
| 34 | 日本地熱学会 | 糸井　龍一 | 会長 | 矢野雄策 | 副会長 |
| 36 | 地理科学学会 | 岡橋　秀典 | 会長 | 奥村晃史 | |
| 37 | 日本地理学会 | 菊地　俊夫 | 理事長 | 須貝俊彦 | 理事 |
| 38 | 日本地理教育学会 | 西脇　保幸 | 会長 | | |
| 39 | 地理教育研究会 | 海東達也 | 理事長 | 御欠席 | |
| 40 | 地理情報システム学会 | 矢野　桂司 | 会長 | | |
| 41 | 東京地学協会 | 野上道男 | 会長 | | |
| 42 | 東北地理学会 | 島田　周平 | 会長 | | |
| 43 | 土壌物理学会 | 溝口　勝 | 会長 | 江口定夫 | 副会長 |
| 44 | 日本粘土学会 | 黒田　一幸 | 会長 | 篠原也寸志 | 庶務委員 |
| 45 | 日本農業気象学会 | 大政　謙次 | 会長 | 石郷岡康史 | 連絡委員:会長代理 |
| 46 | 物理探査学会 | 齋藤　秀樹 | 会長 | 齋藤　秀樹 | 会長 |
| 47 | 日本陸水学会 | 熊谷 道夫 | 会長 | 楊　宗興 | 学術幹事 |
| 48 | 陸水物理研究会 | 北岡　豪一 | 会長 | | |
| 49 | 日本リモートセンシング学会 | 久世　宏明 | 会長 | 久世　宏明 | 会長 |
| 50 | 日本惑星科学会 | 倉本 圭 | 会長 | | |

| NO | 学協会名 | 会長 | 役職名 | 出席予定者 | 役職 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |
| | 日本学術会議委員長 | 大久保修平 | | | |
| | 副委員長 | 藤井良一 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 日本地球惑星科学連合 | 津田敏隆 | | | |
| | 副会長 | 川幡穂高 | | | |
| | 副会長 | 木村 学 | | | |
| | 副会長 | 中村正人 | | | |

# 第 12 回学協会長会議　議事次第

1. 前回議事録確認
　　（資料）第 11 回議事録（P1-5）

2. 日本地球惑星科学連合活動報告
　2015 年大会概要
　　（資料）2015 年大会概要(P6-7)
　　（資料）PEPS 創刊 1 年の歩み(P8-9)

3. 法人運営基本規程第 3 条（団体会員の入会基準）の変更について
　　（資料）法人運営基本規程第 3 条改正案（P10）
4. 日本学術会議の近況報告（資料　P11-12）
5. 次期学協会長議長の選任
6. その他

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第 11 回学協会長会議議事録

開催日時　：平成 26 年 10 月 16 日（木）10 時 00 分から 12 時 00 分
開催場所　：東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室
（東京都文京区弥生 1-1-1）

出 席 者　：
[学協会] 田近英一(日本惑星科学会・議長)，髙橋秀幸（日本宇宙生物科学会），木谷日出男(日本応用地質学会)，井上源喜(日本温泉科学会)，植松光夫(日本海洋学会)，井口正人(日本火山学会)，熊木洋太(日本活断層学会，東京地学協会)，新野宏(日本気象学会)，小山内康人(日本鉱物科学会)，北村晃寿(日本古生物学会)，小島紀徳(日本砂漠学会)，林謙一郎(資源地質学会)，加藤照之(日本地震学会，日本測地学会)，山田正(水文・水資源学会)，小鷹長(石油技術協会)，兒玉裕二(日本雪氷学会)，今村隆史(日本大気化学会)，小林文明（日本大気電気学会），小松原純子(日本堆積学会)，斎藤文紀(日本第四紀学会)，柳澤教雄（地学団体研究会），杉田文(日本地下水学会)，川幡穂高(日本地球化学会)，多田隆治(地球環境史学会)，中村正人(地球電磁気・地球惑星圏学会)，武田一郎(日本地形学連合)，井龍康文(日本地質学会)，海江田秀志（日本地熱学会），菊地俊夫(日本地理学会)，海東達也（地理教育研究会）吉田修一郎(土壌物理学会)，篠原也寸志(日本粘土学会)，横山仁(日本農業気象学会)，渡辺俊樹(物理探査学会)，熊谷道夫（日本陸水学会）北岡豪一（陸水物理研究会），久世宏明(日本リモートセンシング学会)
[日本学術会議] 大久保修平
[連合] 津田敏隆，木村学，（川幡穂高，中村正人），古村孝志

議事内容　：
議事に先立ち，ご出席者の自己紹介を行った。

１．前回議事録確認
前回会議議事録を確認した。

２．日本地球惑星科学連合活動報告
１）新体制の紹介（津田会長）
　昨年度の代議員およびセクションプレジデント選挙を経て，新体制となった連合の新役員，セクションボードメンバーの紹介がなされた。ユニオンサイエンスボードのメンバーについては，日本学術会議第 23 期会員（地球惑星科学委員会）の方々に別途，正式な就任依頼をする予定である。

２）2015 年連合大会準備状況（津田会長・事務局）
・プログラム関係スケジュール

9月1日-10月23日，セッション提案受付
1月8日　投稿・参加登録受付開始
2月18日　最終投稿締切日
3月12日-24日　コンビーナによるプログラム編集作業
3月30日　プログラムWEB公開
5月12日　事前参加登録締切日
5月14日　予稿PDF公開
5月24日-28日　2015年連合大会　幕張メッセにて開催

・セッション提案受付状況

10月16日10：00現在で79セッション（国際セッション20）　である。
昨年は194セッションの開催であったので，さらなるご提案をお願いしたい。

・展示企画

学協会エリアへの参加を募集中である。

・学協会長会議発，ユニオンセッション開催の依頼

2014年大会では，学協会長会議発案・連合環境災害対応委員会主催で，ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を開催したが，引き続き2015年大会においても，同じ趣旨のユニオンセッションを学協会長会議としてご検討いただきたいので，どのような視点で行うのがよいかご提案があればお願いしたい．具体的な内容については，今回もまた連合環境災害対応委員会に検討していただくことにする．賛同する学協会や日本学術会議地球惑星科学委員会などとの共催の形にできればよいのではないか．

３）2014年 AGU Fall Meeting における「Geoscience Japan」への出展協力依頼（川幡理事）

例年，連合としてブースを出展しているが，今年は大きめにエリアを確保し，「Geoscience Japan」（仮称）として，連合の広報だけでなく，日本の地球惑星科学コミュニティ全体の紹介を企画している。各学協会の国際誌，国際学会開催など，発信すべき情報のご提供など，ご協力をお願いしたい。今回は，これまでJpGUロゴがついている国際誌のみ展示してきたが，これを拡大し，特に，JpGU参加学協会の英文ジャーナルについての展示も希望があれば積極的に対応する予定である。手続き，スケジュールについては，今月中をメドにJpGU参加学協会の情報を流す予定である。

【ブース企画案】4つのエリアに分割
「連合の活動紹介」，「日本の国際ジャーナルの紹介」，「留学生等受け入れ情報」，
「日本における国際学会開催および進行中のプロジェクト紹介」

[質疑・応答・意見交換]

・ブース企画案について

日本から海外へ行きたい学生，研究者の情報を発信する方法も検討してはどうか。

・2016年の連合大会開催会場について

これまでの経緯も踏まえて質問があった。連合が早い段階で決定して，案内していただけるとありがたい旨，要請があった。

４）サイト「My JpGU」を通じた学協会（国際誌）との連携の提案　（川幡理事）
日本地球惑星科学連合では，会員相互に研究内容を紹介しあうサイエンス・ コミュニケーションツール「My JpGU」を提供しており，今後このシステムを充実させるべく努力している。メニューのひとつである「関連ジャーナル」の検索において，JpGU 参加学協会のジャーナル（国際誌中心）についても，情報をご提供いただくことで，タイトル，著者名，所属機関などで連合の会員が簡単に検索できることを実現させたいと準備している。今年度末までに，JpGU 参加学協会のジャーナル担当者会議を実施し，どのような方式が効率的に行えるかなどについて議論して，準備する予定なので，是非ご協力をお願いしたい。

５）その他（津田会長，古村理事）
・2015 年大会では，25 周年記念行事として，AGU，EGU，AOGS，日本学術会の代表を招いて，「国際連携」をテーマにシンポジウムを行う。
・フェロー対象資格について，「連合会員であること」の事項を削除した。現在受付中である（締切 12 月 31 日）。
・地球惑星科学振興西田を創設，現在推薦受付中である（締切 12 月 15 日）。

・内閣府公益認定等委員会事務局より，当連合の社員（代議員）選出に関して以下の２点の指摘があり，当連合では WG を作って検討を進めていることが報告された。
【指摘内容】
① 当連合の社員（代議員）は，正会員により選出された代議員（選出代議員）と団体会員（加盟学協会）の代表（団体代議員）により構成されるが，正会員によっては，自身が加盟する学協会の代表の選出を通じて二重に連合の意志決定に参画できることになり，公平性に欠けるのではないか。
② 選出代議員に比べて，団体代議員の適正を将来にわたって保証する制度設計が不十分ではないか。たとえば，現行ではごく少人数からなる新たな団体会員が，他の選出代議員と団体代議員と同等の議決件を持つことになるが，これで良いか。

選出代議員と団体代議員による社員の構成というスタイルは，地球惑星科学コミュニティを代表して公平な意見発出を行うことを目的としたものであり，こうした学術研究団体の連合体としての意義，そして組織運営・社員総会運営が適切に行われていることについては，内閣府公益認定委員会事務局担当者に理解していただいている。ただ，現行の公益社団法人の中で当連合のような（ハイブリッド型の）代議員構成をとっている例は他になく，これが現行の公益認定法に適合しない可能性があるため，検討が必要である。これに対して，①に関しては，当連合の「学協会との共存共栄」の方針に変わりはなく，認定法に則りながら現状の社員体制を継続できるよう方策を検討中である。②については，今後の団体会員の入会基準を厳格化する方向で対応を検討中である。具体的には，日本学術会議が定める日本学術会議協力学術研究団体に準ずることを団体会員の要件とすること，などが考えられる。
[質疑・応答・意見交換]
・内閣府からの指摘に関して
現状の「選出代議員と団体代議員」という社員構成はむしろ新たな形として今後標準となるはず

であり，海外からも評価を得ている。新しい試みの成功例として，現体制が維持できるようによい施策を検討してほしい。

３．日本学術会議の近況報告　（日本学術会議地球惑星科学委員会　大久保委員長）

１）第 23 期体制について

2014 年 10 月 1 日より第 23 期としての活動がスタートし，10 月 1 日の総会にて，会長（大西隆会員留任）および副会長（向井千秋，井野瀬久美恵，花木啓祐各会員）が選出され，10 月 2 日の第 3 部会で部長，副部長が選出された。10 月 3 日の第 1 回地球惑星科学委員会においては，大久保修平委員長，藤井良一副委員長，高橋桂子，中村尚各幹事が選出された。近日中に地球惑星科学を専門分野とする会員（8 名），連携会員（64 名）を中心に 60 名程度を追加して，第 23 期地球惑星科学委員会を構築する予定である。

分科会については，企画分科会，地球・惑星圏分科会，地球・人間圏分科会，社会貢献分科会，国際連携分科会に加え，人材育成分科会を新設する予定である。

また，3 年に 1 度行われる会員・連携会員の選考にあたっては，学協会への参考情報のご提供をお願いしたい。

２）第 22 期成果について

前回（5 月）以降，提言 2 件，報告 1 件，記録 1 件を発出した。

上記のうち，提言「これからの地球惑星科学と社会の関わり方について-東北地方太平洋沖地震・津波・放射性物質拡散問題からの教訓」は，地球惑星科学という学問として，またコミュニティの在り方の総括として，東北地震・津波・原発問題に取り組んだものである。国や国民への提言であると同時に，地球惑星科学コミュニティ，研究者への提言ともなっている。関係学協会会員へ一読を勧めていただきたい。特に，提言３（有事に備え研究者が考えておくべきこと），４（情報発信の仕組みを構築する重要性），５（マスコミ向け），６（情報の受取手である国民向け）が，重要である。連合ニュースレター誌 JGL11 月 1 日号にも掲載予定である。

３）第 23 期地球惑星科学委員会の活動方針について

・(課題 1) 中型～大型研究計画の深化

2014 年 4 月に学術会議が策定した大型研究計画マスタープラン 2014 では，地球惑星科学分野から 13 件が採択されたものの，「重点大型研究」には，わずかに 1 件の採択にとどまった。他分野に比べて，地球惑星科学分野のヒアリング対象件数に対する採択件数の割合の低かった点は，分野全体の問題として受けとめ，対策が必要である。2017 年 4 月のマスタープラン改訂は事実上，2016 年 9 月にほぼ確定することから，地球惑星科学委員会では，今後 1 年数か月を目途に準備を進める。本年 12 月 27 日-28 日にフォローアップ WS を東大地震研究所にて公開で行う。

・(課題 2) 第 22 期地球惑星科学委員会の提言のフォローアップ

社会貢献分科会が中心に検討

・(課題 3) 地球惑星科学における，教育・人材育成

人材育成分科会（仮称，新設）が中心に検討

[質疑・応答・意見交換]

・「重点大型研究」に選ばれるメリットについて

大型研究として，文部科学省学術機関課が所掌する予算の措置を受けるには，科学技術・学術審議会の下にある研究環境基盤部会が審議立案するロードマップに採択される必要がある。これまでは，学術会議の「重点大型研究」に採択されたものが，ロードマップのヒアリング対象になってきた。他の省庁については，メリットは明確ではないが，日本学術会議にエンドースされていることは，よい印象である。

・学術会議から発出される提言，報告，記録の違いについて

「提言」は，学術会議の意思の表出，「報告」は他からの依頼に応じる形での意思表出，「記録」は，学術会議の意思表出にはいたらず，議論した内容をまとめたものである。今後の審議の参考として活用が期待される。

・地球惑星科学分野がまとまって，プレゼンスを高めることは重要である。

４．その他（アクションアイテムなど）

・2015 年連合大会での学協会長会議としてのセッション提案検討

2014 年大会のユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を継続する方向で，具体的な提案があれば受け付ける．具体的な内容は，今回もまた環境災害対応委員会に検討をお願いする.

・2016 年，および以降の連合大会開催会場については別途案内する。特に 2016 年大会については，早い段階で案内する。

・2014 年 AGU Fall Meeting 連合ブースにおける参加ご協力について，後日連合事務局よりご案内をするので，検討する。

・次回会議開催の案内

開催日時　：平成 27 年 5 月 27 日(水)　13 時 00 分から 14 時 00 分

開催場所　：幕張メッセ国際会議場 302 号室（千葉市美浜区中瀬 2-1）

以上

# 日本地球惑星科学連合活動報告

## 2015 年大会概要

◆概要

会　期：2015 年 5 月 24 日（日）～28 日（木）

会　場：幕張メッセ国際会議場、APA ホテル＆リゾート 東京ベイ幕張　幕張ホール

◆セッション数

| 年次 | 国際 | 通常 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 2015 | 55 | 133 | 188 |
| | 29.3% | 70.7% | |
| 2014 | 43 | 150 | 193 |
| | 22.3% | 77.7% | |
| 2013 | 42 | 138 | 180 |
| | 23.3% | 76.7% | |
| 2012 | 41 | 136 | 177 |
| | 23.2% | 76.8% | |

（3 月 20 日時点）

◆投稿数

| 年次 | 国際 | | | 通常 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | オーラル | ポスター | 合計 | オーラル | ポスター | 合計 | |
| 2015 | 743 | 245 | 988 | 1,798 | 1,151 | 2,949 | 3,937 |
| | | | 25.1% | | | 74.9% | |
| 2014 | 574 | 197 | 771 | 1,855 | 1,113 | 2,968 | 3,739 |
| | | | 20.6% | | | 79.4% | |
| 2013 | 593 | 289 | 882 | 1,620 | 1,362 | 2,982 | 3,864 |
| | | | 22.8% | | | 77.2% | |
| 2012 | 598 | 191 | 789 | 1,358 | 1,655 | 3,013 | 3,802 |
| | | | 20.8% | | | 79.2% | |

（全て高校生セッションを除く）

◆緊急セッション

セッションタイトル：緊急セッション　ネパール地震　（仮名・5 月 20 日時点）

開催日：25 日,26 日（ポスターセッション）

主催者：日本地震学会・連合環境災害対応委員会（共催）

◆主な行事

5 月 24 日（日）

パブリック・セッション 「ジオパークへ行こう」「地球惑星科学トップセミナー」「高校生によるポスター発表」「研究者の多様なキャリア形成を考える」「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」

09:00～18:00　U-06 「宇宙・太陽から地球表層までのシームレスな科学の新展開」 105 号室

5 月 25 日（月）

09:00～18:00　U-05 「Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究」 103 号室

5 月 26 日（火）

09:00～12:45 U-02「Science Landscape of Japan with NASA Space Missions」 国際会議室
13:15～18:45 U-01「Geoscience Ahead」 国際会議室

5 月 27 日（水）

09:00～16:00 U-04「地球惑星生命フロンティア開拓」 国際会議室 （14:15～16:00 は 201A）
13:00～14:00 学協会長会議 302 号室
14:15～16:00 U-03「日本地球惑星科学連合と学術出版の将来」 国際会議室
16:15～17:15 定時社員総会 国際会議室
17:30～18:00 地球惑星科学振興西田賞授賞式 国際会議室
18:00～18:30 日本地球惑星科学連合フェロー授賞式 国際会議室

5 月 28 日（木）

09:00～18:00 U-05「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」 103 号室

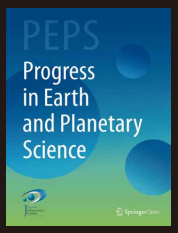
## 2015 年連合フェロー

（敬称略・50 音順）

秋元 肇, 石田 瑞穂, 伊藤 英司, 太田 陽子, 大家 寛, 兼岡 一郎, 上出 洋介,
國分 征, 平 朝彦, 茂木 清夫, 八木 健彦, 安成 哲三, 吉野 正敏
(以上 13 名)

## 第 1 回地球惑星科学振興西田賞 受賞者

相川 祐理, 河北 秀世, 是永 淳, 鈴木 建, 竹村 俊彦,
長谷川 洋, 三好 建正, 三好 由純, Andre Revil, 渡部 雅浩




# Open Access E-Journal PEPS

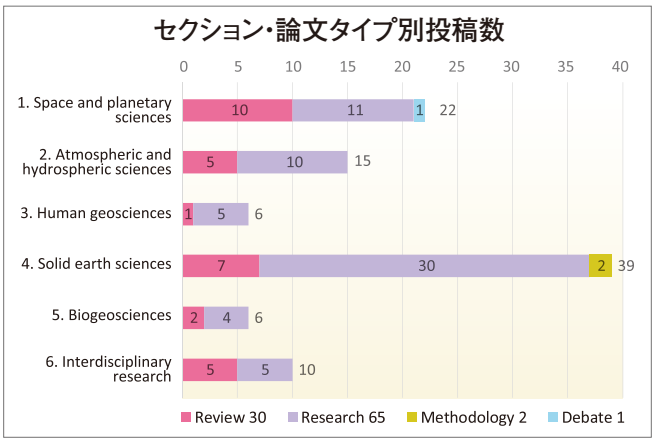
## PEPS創刊１年の歩み

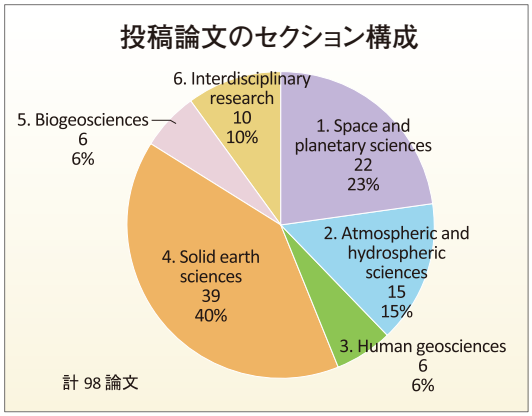
Progress in Earth and Planetary Science（PEPS）が、2014年4月22日に査読付きオープンアクセス電子ジャーナルとして出版を開始して１年が過ぎました。

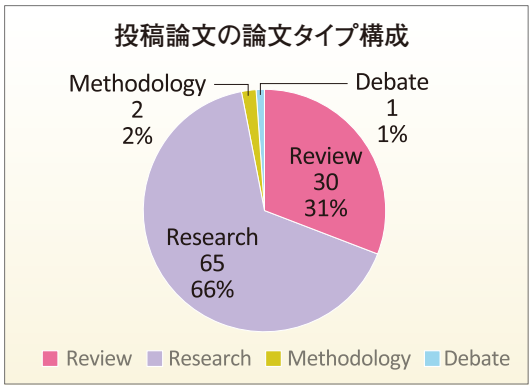
PEPSで扱うのは地球惑星科学の全分野（セクション）、および分野を越えたテーマに関する論文です。

1. Space and planetary sciences（宇宙惑星科学）
2. Atmospheric and hydrospheric sciences（大気水圏科学）
3. Human geosciences（地球人間圏科学）
4. Solid earth sciences（固体地球科学）
5. Biogeosciences（地球生命科学）
6. Interdisciplinary research（横断的分野）

Review articles（総説）とResearch articlesを中心に、これまで98編の論文の投稿を受け付けました。PEPSの最大の特長は、出版論文の30%以上がReview articlesで占められていることです。厳正な査読を経て40編が受理され、うち35編がSpringerOpenのジャーナルサイトで出版・公開されています（2015年5月12日現在）。PEPSは、投稿、査読も含めて皆様コミュニティにより支えられています。今後ともご支援よろしくお願いいたします。この１年間のPEPSの歩みをデータでご紹介いたします。

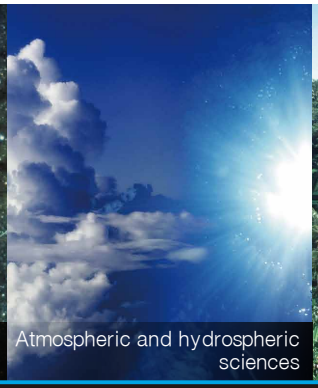


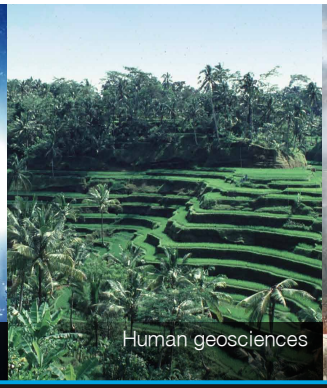



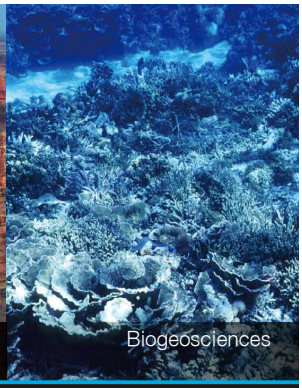




| | | | |
|---|---|---|---|
| 総投稿数 | 98 | Accepted（出版済み含む） | 40 |
| | | 査読中 | 35 |
| | | Rejected/Withdrawn | 23 |
| 平均日数（投稿～出版） | 181.3日 | 査読日数（投稿～ Accept） | 147.6日 |
| | | 制作日数（Accept ～出版） | 33.7日 |
| 出版済み35論文の総ページ数（2段組レイアウト） | | | 569ページ |
| 1論文あたりの平均ページ数 | | | 16.3ページ |
| 出版済み35論文への総アクセス数 | | | 59,675アクセス |
| 1論文あたりの平均アクセス数 | | | 1,705アクセス |

2015年5月12日現在





# Review articles（総説）

PEPSは最新の体系的な知識を集約したReview articles（総説）を数多く扱っています。Review articlesは日進月歩の科学動向を示す事により、研究の理解を助け、新しい研究課題の発見に役立つ事が期待されます。現在出版されているReview articlesを下記に紹介しますので、大学のゼミ等で積極的に活用いただければと思います。

## 宇宙惑星科学

◆気候変動に対する中間圏－熱圏－電離圏システムの応答とCAWSES-IIの貢献

Response of the mesosphere-thermosphere-ionosphere system to global change – CAWSES-II contribution

Laštovička J, Beig G, Marsh D R　doi:10.1186/s40645-014-0021-6

◆太陽が気候変動に与える影響は何だろうか? CAWSES-II期間中の研究活動の概観

What is the solar influence on climate? Overview of activities during CAWSES-II

Seppälä A, Matthes K, Randall C E, Mironova I A　doi:10.1186/s40645-014-0024-3

◆下層大気からの入力に対するジオスペースの応答：CAWSES-IIタスクグループ4の成果

The geospace response to variable inputs from the lower atmosphere: A review of the progress made by Task Group 4 of CAWSES-II

Oberheide J, 塩川和夫, Gurubaran S, Ward W E, 藤原 均, et al.　doi:10.1186/s40645-014-0031-4

## 大気水圏科学

◆非静力学正20面体格子大気モデル NICAM：概要および開発

The Non-hydrostatic Icosahedral Atmospheric Model: Description and Development.

佐藤正樹，富田浩文，八代 尚，三浦裕亮，小玉知央，清木達也，野田 暁，山田洋平，五藤大輔，沢田雅洋，丹羽洋介，原 政之，大野知紀，伊賀晋一，荒川 隆，井上孝洋，久保川陽呂鎮　doi:10.1186/s40645-014-0018-1

◆IPCC AR5における地球システムモデリングとこれから

Modeling in Earth system science up to and beyond IPCC AR5

羽島知洋，河宮未知生，渡辺路生，加藤悦史，立入 郁，杉山昌弘，渡辺真吾，岡島秀樹，伊藤彰記

doi:10.1186/s40645-014-0029-y

◆中間圏および下部熱圏の力学：レビュー

The dynamics of the mesosphere and lower thermosphere: a brief review

Vincent R A　doi:10.1186/s40645-015-0035-8

## 固体地球科学

◆高温高圧下における熱水流体とマグマの相互作用

Water-melt interaction in hydrous magmatic systems at high temperature and pressure

Bjorn Mysen　doi:10.1186/2197-4284-1-4

◆高圧における金属鉄の音速：その実験的制約と外挿、そして地震学モデルとの比較

Antonangeli D，大谷 栄治　doi:10.1186/s40645-015-0034-9

## 地球生命科学

◆海底熱水の物理・化学的多様性が熱水生態系に及ぼす影響についての理論的考察

Theoretical constraints of physical and chemical properties of hydrothermal fluids on variations in chemolithotrophic microbial communities in seafloor hydrothermal systems.

中村謙太郎，高井 研　doi:10.1186/2197-4284-1-5

◆環境研究および生態学研究において炭素・窒素同位体比を利用するための生化学的・生理学的基礎

Biochemical and physiological bases for the use of carbon and nitrogen isotopes in environmental and ecological studies

大河内直彦，小川奈々子，力石嘉人，田中洋之，和田英太郎　doi:10.1186/s40645-015-0032-y

＊学生さんのために、PEPSで発表された論文のハイライトを日本語でコンパクトにまとめてありますので、PEPS Webサイトをぜひご覧ください。（http://progearthplanetsci.org/highlights_j.html）

## 法人運営基本規程第 3 条改正（連合団体会員資格）について

3 月 27 日（金）第 9 回理事会にて法人運営基本規程 3 条の改正を定時社員総会に諮ることを承認した。

法人運営基本規程　第 3 条

■現行

（入会基準）
第 3 条　正会員、団体会員又は賛助会員として入会を認める基準は次のとおりとし、理事会が別に定める方法をもって、申し込むものとする。
(1) 正会員　：地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する者
(2) 団体会員：地球惑星科学に関わる活動実績を有する学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体
(3) 賛助会員：この法人の事業を援助する個人又は団体
2 この法人は、地球惑星科学の教育及び普及のため、大学学部学生及びこれに准ずる者並びにそれより年少のものであって、地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人で、この法人の目的及び事業に賛同し入会を希望するものを、会費の納入義務のない准会員として募ることができる。

■改正案

（入会基準）
第 3 条　正会員、団体会員又は賛助会員として入会を認める基準は次のとおりとし、理事会が別に定める方法をもって、申し込むものとする。
(1) 正会員　：地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する者
(2) 団体会員：地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。
(3) 賛助会員：この法人の事業を援助する個人又は団体
2 この法人は、地球惑星科学の教育及び普及のため、大学学部学生及びこれに准ずる者並びにそれより年少のものであって、地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人で、この法人の目的及び事業に賛同し入会を希望するものを、会費の納入義務のない准会員として募ることができる。

参考：平成 27 年日本地球惑星科学連合定時社員総会
日　　時　平成 27 年 5 月 27 日（水）16 時 15 分～17 時 15 分
場　　所　千葉幕張メッセ国際会議場　国際会議室
（〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1）

# 日本学術会議報告

**[23期のこれまでの活動]**

学術会議は，2015年4月9日-11日、169回総会を開催した。

(1) 科学研究における健全性の向上（文科省からの審議依頼に対する回答）；学協会については、学会誌のauthorship、2重投稿に関する規定を定めることが求められつつある。

http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-k150306.pdf

(2) 第5期総合科学技術計画のあり方に対する提言（「バランス」big vs small，基礎 vs 出口志向、重点化と多様性確保、イノベーション（革新）とインベンション（発明）、拠点の集中と分散…．　科研費とそれ以外の効率）

http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t209-1.pdf

(3) 学術会議の在り方　：　法改正H17　10年を目途にあり方を内閣府特命担当大臣（科学技術政策）の諮問する有識者会議（座長　尾池元京大総長）で再検討。基本的には現状維持（内閣府の外局、独立性の保持）が報告された。

(4)　大型研究計画検討分科会　相原委員長、第一回。方向性としては、前回のやり方をベースに幾分の手直し。情報収集のため、前回のエントリー者（含む不採択）へアンケートを行う方向。分野融合的な計画への配慮。

**[23期地球惑星科学委員会の活動]**　今期の地球惑星科学委員会は，図１にあるような分科会・小委員会を立ち上げた。以下の課題に取り組む.

（課題　1）　大型研究計画の深化

仮に、前回と同様のスケジュールで行われるならば、大型マスタープランの公募はH28.3月ごろに行われ、審査はH28.5月～9月に行われる。マスタープランを日常的に練り上げる体制づくりが重要。H26.12.28に大型研究計画フォローアップWS、3月にフィードバックを行った。今後は、地球・惑星圏分科会を中心に検討する．次回WSはH27.9～11月を軸に検討中。

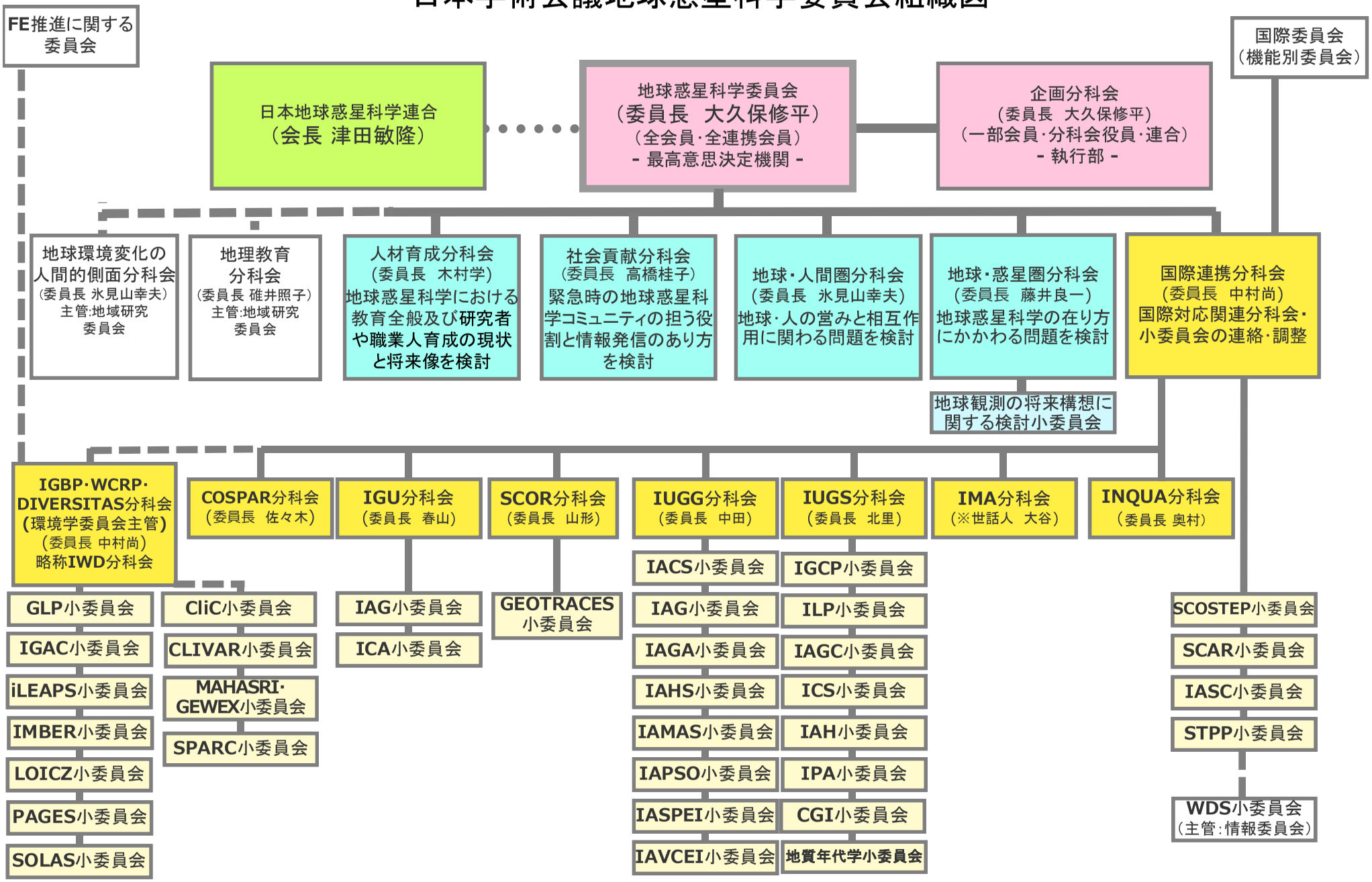
（課題　2）　第22期地球惑星科学委員会の提言のフォローアップ

①自然災害に起因したり，あるいは人災であっても自然現象が大きな影響を及ぼしたりするような国家的危機に際して，地球惑星科学コミュニティとして果たすべき役割を考え，体制を整備すること，　②緊急時の地球科学的な情報発信のあり方を明確にしておくこと（研究者コミュニティ及び報道機関双方），などである．これらについては，社会貢献分科会を中心に検討する．

（課題　3）　地球惑星科学における，教育・人材育成

初等中等教育から社会人教育まで含めた地学教育及び地学リテラシーの涵養，およびPDのキャリアパスの開拓など，複雑に絡み合った問題を解きほぐし，解決への糸口を見出すことを目指す．この問題は，地球惑星科学人材育成分科会（仮称）を設置し，審議を進めていく方針である．

図１

2015/4/8

# 日本学術会議地球惑星科学委員会組織図